

⑫ 実用新案公報 (Y2) 昭 56-51885

⑮ Int.Cl.<sup>3</sup>  
A 63 B 57/00

識別記号

庁内整理番号  
6970-2 C

⑯ 公告 昭和 56 年 (1981) 12 月 3 日

(全 3 頁)

1

2

⑭ ゴルフティ

⑰ 実 願 昭 53-91162

⑱ 出 願 昭 53 (1978) 6 月 29 日

公 開 昭 55-5998

⑲ 昭 55 (1980) 1 月 16 日

⑳ 考 案 者 永田 寛次郎

八尾市安中町 9 丁目 1 番地

㉑ 出 願 人 永田 寛次郎

八尾市安中町 9 丁目 1 番地

㉒ 代 理 人 弁理士 永田 良昭

㉓ 引用文献

実 開 昭 50-3671 (JP, U)

実 公 昭 8-15565 (JP, Y1)

㉔ 実用新案登録請求の範囲

硬質支杆 3 の略上下中間部より上方の上端部材 5 の上面 8 をゴルフボールの支受面とし、前記上端部材 5 の外周には、複数個所に通気孔 16 を有し上部程大径となる衝撃により変形する筒状支持部材 4 を設け、該筒状支持部材 4 と支杆上端部材 5 間に環状空間部 24 を形成し、前記筒状支持部材 4 の上端縁 17 をゴルフボール載置部としたことを特徴とするゴルフティ。

考案の詳細な説明

この考案はゴルフプレイにおけるティアップ時に使用するゴルフティに関する。

現在一般に使用されているゴルフティは硬質樹脂材により一体的に成形され、そのゴルフボール載置部はゴルフボールを安定性よくかつ確実に支受するためにその支受面積を大きくしたその周縁部を中心部より高くしている。

このようなゴルフティにあつては、そのゴルフボール載置部がゴルフボールの下面外周にそつて側面に大きく突出しているためティショットの際にクラブヘッドがゴルフボールに接触直後にこの載置部周縁にタイミング的に早い時期に衝突し、

この載置部周縁との衝突によつてクラブヘッドのスピードは極端に低下するとともに、ゴルフティもいつしよに遠くに飛んでしまい紛失してしまうことが多かつた。

5 さらにゴルフティの載置部の周縁部に加えられた大きな衝撃力は直接その支杆部に伝わり、支杆部が折損することもある。

そこでこれらの問題および欠点を解決するために、従来のゴルフティの載置部の支受面積を小さくする方法が考えられるが、あまり小さくするとゴルフボール載置時の安定性が悪くなるため、このことにも限界がある。

また一部のゴルフティには載置部全体を軟質材で形成したものもあるが、このゴルフティにあつては載置部全体が軟質でありゴルフボールを弾性的に支受しているためゴルフボールの打撃時におけるボールの安定性にかけるなどまだ多くの欠点を有するものである。

これらの諸欠点を解決したのが本考案であり、以下その一実施例を図面にもとづいて説明する。

ゴルフティ 1 はゴルフボール 2 を支受する硬質支杆 3 とゴルフボール 2 を補助的に支持する軟質材で上部に至る程大径の筒状の支持部材 4 とから成る。

25 上記支杆 3 はその略上下中間部より上方の上端部材 5 と下端部材 6 と支杆 3 の強度を高めるための補強芯材 7 とにより形成されている。

上記上端部材 5 には、その上端においてゴルフボール 2 を支受する支受面 8 を有し、その下端中心部において嵌合溝 9 を有した嵌合凹部 10 と、芯材 7 を挿入するための孔 11 が設けられている。

また上記下端部材 6 は、その下端部 12 は地面に突刺すため鋭利に形成し、その上端部において前記上端部材 5 に設けられた嵌合凹部 10 に嵌り合うような溝 13 を有した嵌合凸部 14 と、芯材 7 を挿入するための孔 15 が設けられている。

そして上記上端部材 5 の嵌合凹部 10 と下端部

3

4

材 6 の嵌合凸部 14 とが嵌り合うことにより支杆 3 が形成される。このとき同時に 1 個の芯材 7 が上端部材 5 および下端部材 6 の孔 11, 15 に挿入され、両部材 5, 6 を補強連接する。

前記支持部材 4 には内外両面に開通した通気孔 16 とゴルフボール 2 の下面外周を補助的に支持する周縁部 17 とが設けられている。

この支持部材 4 の被嵌孔 18 には支杆 3 の下端部材 6 の嵌合凸部 14 が挿入され、下端部材 6 の挟持面 19 と上端部材 5 の挟持面 20 とにより、支持部材 4 の挟持部 21 が挟持固定されている。

またこの支持部材 4 は、支杆 3 に固定されたとき、支持部材内周面 22 と支杆外周面 23 とにより適当な空間 24 を形成するような形状である。

上述した如く本考案のゴルフティーにあつては、支杆 3 の略上下中間部より上方の上端部材 5 の上面 8 をゴルフボールの支受面とし、前記上端部材 5 の外周には、複数個所に通気孔 16 を有し上部程大径となる衝撃によつて変形する筒状支持部材 4 を設け、該筒状支持部材 4 と支杆上端部材 5 間に環状空間部 24 を形成し、前記筒状支持部材 4 の上端縁 17 をゴルフボール載置部としたことにより、勢いよく振り降されたクラブヘッドの引き起す風は、インパクト直前にクラブヘッド側の通気孔から他の通気孔へ瞬間的に排出されることになり、このため風の抵抗が少なくなるとともに、イ

ンパクト直後にクラブヘッドが筒状支持部材 4 と衝突しても、前記環状空間部 24 のため筒状支持部材 4 は容易に内側へ屈曲変形し、衝突による抵抗を殆んど無くすることができる。

このためクラブヘッドのスピードは低下せず勢いよくクラブを振り抜け、従来のゴルフティを使用した場合に比べ飛距離が大きくなる。

しかもインパクトの瞬間、前述した通り筒状支持部材 4 は屈曲変形すると同時に、支杆上端部材 5 と筒状支持部材 4 間の環状空間部 24 内には空気層があるため、ゴルフティは遠くへ飛んだり折れたりすることがなく、殆んどティショット位置近傍部にある。従つてティを紛失することが少なく 1 本のゴルフティを長く使用できる。

更に本考案では中芯に位置する上端部材上面 8 は、ボールの支受面に形成し、筒状支持部材 4 の上端縁 17 を載置部としているので、硬いティグラウンドの土にも簡単に突差することができる。

#### 図面の簡単な説明

図面はこの考案のゴルフティの一実施例を示しており、第 1 図はゴルフティの斜視図、第 2 図はゴルフティの分解斜視図、第 3 図はゴルフティの A—A 断面図、第 4 図はゴルフティの B—B 断面図である。

1……ゴルフティ、2……ゴルフボール、3……支杆、4……筒状支持部材、12……下端部。

